

事例9： 匿名A病院（関西地域）の取り組み

「理学療法士等の病棟業務支援により、毎日0.3人分の看護師の負担が軽減できた」

概要

- （状況） 感染症患者を常時2～3人ずつ、最大で6人まで受け入れている。
救命病棟（2床）、感染病棟（4床）。
- （支援） 3/25から理学療法士が交代で病棟業務の支援を継続している（2～3人／日）。
- （結果） 日勤の看護師が0.3人分の負担軽減ができています（7時間勤務のうち約2時間を支援）。

コロナ対応病棟での支援

- ・ コロナ対応専用病棟でのリハビリテーション対応：あり 酸素投与後から理学療法提供
- ・ 環境調整技術（病室整備の療養生活環境調整）
- ・ 活動・休息援助技術（体位変換）
- ・ 物品搬送等

その他の病棟での支援

- ・ 夜勤業務：なし
- ・ 活動休息援助（廃用症候群の予防）
- ・ ADLへの働きかけ、褥瘡予防、体位変換含む
- ・ 清潔衣生活（コール対応、排泄援助、食事援助、入浴援助）
- ・ 環境調整（グリーンゾーンの環境整備業務等）
- ・ 後方支援業務（住環境などの情報収集、家族対応）
- ・ 精神的支援

病院プロフィール

- 病院の機能説明：
3次救命救急
地域がん診療連携拠点病院
- コロナ患者対応：あり
- 全病床数：300床規模
（回復期リハ病棟
高度急性期病棟
感染病床）
- 感染対策の教育：
感染管理看護師からの教育